

取組の概要

対象畜種

豚

協議会構成員

(有)コマクサファーム、八幡平市エサ米研究会、盛岡市玉山区エサ米研究会、JA新しいわて西部営農センター、東部営農センター、岩手農政事務所地域第4課、八幡平市農林課、盛岡市玉山区産業振興課、盛岡地方振興局農政部、八幡平農業改良普及センター

飼料用米生産面積

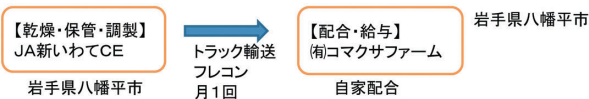
45.0ha

供試品種

どんぴしゃり 45.0ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆カントリーエレベータで保管した飼料用米を畜産農家が手配したトラックで直接農場へ運搬。
- ◆畜産農家が飼料バルクに投入の際に混合

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：配合飼料に10%配合。肥育豚に対して出荷前2ヶ月間給与。

調査項目：生育状況の観察……食い込みは良好。見た目による生育の差はないと感じられた。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 飼料用米の生産者のカントリーエレベータへの搬入は、主食用米との混入を防止するため、主食用米の作業終了後に期間を設定して行った。
- 流通コストを低減するため、カントリーエレベータから畜産農家が手配したトラックにより直接農場へ搬入し、自家配合により給与した。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 飼料用米を給与した豚の出荷データによると、若干肉質が悪く、体重ものらない枝肉となってしまったが、この原因は、豚舎の変更等による密飼によるストレスが原因と考えている。
- 飼料原料としては、配合割合をもう少し増やしても十分利用できるものと思われた。

3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 平成21年度は飼料用米の作付面積を60haに拡大し、取組を継続する。

八幡平市役所農政課 橋本 光幸

参考データ・写真等



上：収穫の状況
右：乾燥・調製・保管を実施したカントリーエレベータ



新岩手農業協同組合